

SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・
地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

NPO法人 地域福祉サポートちた

もくじ

- ゆるやかに広がる連携・協働のご報告... 1P
- 特集: 会員交流会レポート
「私たちNPOの原点を考える」..... 2～3P
- 星槎名古屋中学校「中学生レストラン」・4P
- 2022年度
愛知県男女共同参画推進活動者表彰 4P
- サポちたインフォメーション..... 4P

ゆるやかに広がる連携・協働のご報告

代表理事 市野 恵

■愛知県内支援センター情報交流会報告



有志を代表して挨拶する大野氏(碧南)

愛知県内の市民活動センター職員、担当課等の市民活動支援関係者37人が9月28日、あいちNPO交流プラザにて意見交換が行われた。

愛知県内支援センター情報交流会とは、これからのセンターに求められる役割について学びあうことを目的に、年間全体交流会とプチ交流会を開催、官民有志による企画運営を行っている。

今年度は「魅力あるセンター事業を各センターではどのように企画立案しているのか?」を解消すべく、『センター事業を魅力UP! イチ押し企画の大交流会』と題し、アイデアの集め方等工夫点を調査、そこからテーマを“地域の担い手”“若者”“SDGs”に絞り事例を紹介した。SDGs未来都市に選出された小牧市では、市内企業や団体等に向け、センター独自のこまきSDGs宣言を募集したことで、NPO中間支援の理解促進に一役を担ったとの紹介があった。また当法人からは、いち早くコミュニティ施策に着手した知多市地域担い手育成ファシリテーション研修を報告、グループセッションでは各市町の施策や連携状況を共有した。

■介拓奨学生プログラム 経過報告

昨年12月、高校生のキャリア教育を専門とする一般社団法人アスバシが事務局として、社会福祉法人むそう理事長を代表に発足した介拓奨学生プログラム(以下、介拓PG)についての経過報告は次の通り。介拓PGとは、進学のための高額な学費の負担や

貸与型の奨学金への不安、自力で自分の未来を切り拓きたいといった思いをもつ高校生に、自分の未来は自分で開拓していく道を提案したい!という思いから生まれている。(https://kai taku.org/ 当実行委員会より)

介護福祉には、自分の将来で活躍するための力、例えばコミュニケーション力やチームワーク等のスキルを磨けるだけでなく、どの地域でも役立つ資格につながるとして、介拓PGでは今夏、そのきっかけとなる介護職員初任者研修課程を無償提供した。研修期間中は県内の各事業所で座学や演習を行い、移動や個別相談等のサポートの結果、8月19日の修了式には17人全員が修了証明書を手にすることができた。資格取得後の現在は、学業を優先させながら介護福祉現場で働き、自分の学費や生活の資金を得ながら、将来につながる経験を積み重ねている。



豊田市内での演習の様子

ここで出会う学校や地域を超えたつながりは、将来の道を本気で考え合う仲間となるのがポイント。同時に、高校生も私たち大人も介護福祉を通じて共に育ちあえる魅力が詰まっている。この取り組みを応援しようと過日、株式会社三菱UFJ銀行様より寄付50万円を受領した。心より御礼申し上げます。

個別避難計画～誰一人取り残さない防災～を学ぶ

講師 村野淳子さん(別府市防災局防災危機管理課)
日時 11月15日(火) 18時～20時
会場 知多市市民活動センター2階 会議室1, 2
対象 福祉施設等職員、5市5町行政・社協
主催 日本福祉大学地域ケア研究推進センター 福祉施設等のBCP、減災ネットワーク研究会(事務局/市野)

特集 会員交流会レポート

「私たちNPOの原点を考える」

講師：西野博之氏(認定NPO法人フリースペースたまりば 理事長)

6月18日、会員交流会を開催した。私たちが目指す「地域包括ケアのまちづくり」や、「地域の居場所」について、今一度、みなさんと語り合うため、不登校と呼ばれる子どもたちの居場所づくりに長年関わってこられた、(認N)フリースペースたまりば理事長の西野博之さんをお迎えした。西野さんの講演「私たちNPOの原点を考える」の内容を紹介する。(早川)

■はじめに

36年前から不登校の子どもと関わり、1991年に「フリースペースたまりば」をつくった。昨年、30周年。不登校、ひきこもり、障がいのある人たちと、地域で育ち合う活動をやってきた。2000年成立の「川崎市こどもの権利に関する条例」の策定や、条例の具現化をめざしてつくった「子ども夢パーク」にも関わっている。



講師の西野博之氏

■子どもたちは、今、どんな時代を生きているのか

10～39歳のすべての年代において、死因の第1位は自死。世界でも例のないことである。文部科学省や警察庁が発表するデータからみても、毎日1人以上の子どもの自死している。それだけ、子どもたちが「生きていい」、「生きていて、楽しい」と思えない社会を私たちが作り出している。

さらに、コロナ禍で、不登校・ひきこもりの相談がかなり増えた。報道でも、女性と子どもの自死が増えているという。コロナの感染対策として、人と人との接触や会話を減らさなければならない。「離れて、離れて」と、分断・孤立が広がって、生きづらさが増している。自死対策としては、孤立を防がなければならない。この相反する対策の中で、子どもたちがいのちを落としていることを、私たちは頭に入れておく必要がある。

■居場所づくり①

(共に生きていく場・学校外で多様に学ぶ場)

不登校・ひきこもりは、「いのち」に関わる問題。たくさん子どもたちが、学校に行けないだけで、いのちを落としていく。だから、私たちの原点は、子どもの「いのち」を真ん中に据えた、安心し

た居場所をつくる。

学校に行けないだけで死のうとしてしまう子どもたちに出会って、1991年に、学校に居場所がないからって、死ぬことはない、ちゃんと学べる・生きていける場をつくろうとした。そこで、不登校の子どもに出会った大人の責任も考えて、「何とかしてあげないと」と思い、いろいろな教材を用意した。しかし、最初に来た子どもたちがやったことは、天井裏に立てこもり、「ここが私たちの居場所」だと言いつつ放った。大人は、「学校に行けないだったら、勉強しろ」とかいろいろ助言をしたがるが、「このままの私たちではダメなのか?」と。これは、後頭部をハンマーでたたかれたような衝撃だった。大人の「よかれ」は、子どもの「迷惑」である。そこで、「自分たちの好きなことをやればいい」と言ったら、筏下りなど毎日、川で遊んで過ごした。そして、「学校に行けなくなった子どもを、1日でも早く学校に戻すべき。勉強させなきゃいけないのに、川で遊んでいるなんてけしからん」と、開設から7年間は、学校・行政の敵、バッシングの嵐だった。

■「支援する」「支援される」関係への疑問

1990年代後半、たくさんボランティアが来るようになっていたが、「～してあげる」という上から目線の人が増えた。それに対し、子どもたちも「今日、〇〇さんが来てくれて、うれしい」と、忖度するようになった。子どもたちは会費を払いながら、ボランティアを持ち上げる、この関係はおかしいと思った。また、「支援のプロだったら、私を楽にしてほしい」という子どもが出始めてきた。支援するとか、支援されるという関係。私たちは、支援のプロとして、何かをしてあげる人なのか、そもそも居場所って、だれかのためにつくってあげるものなのか。このとき、スタッフで議論して、原点回帰をした。何の代償でお金をもらえるかという迷宮に入り、居場所が必要ならばスタッフもお金を払って、みんなで作って合おうと4年間、全員無給にした。

■行政の変化・居場所づくり②

(行政との連携)

教育委員会が、「こんなことをやっていて、社会に出られるようになるのか、学校に戻れるようになるのか、調査をして、結果を報告しなさい」と言ってきた。調査する義務はなかったが、やってみたら驚くべき結果が出た。オープンしてから7年間に、

たまりばで毎日遊んでいた子どもたちの9割以上が、高校や大検予備校など、何らかの学びの場につながっていた。これを見た行政は驚いた。行政が、適応指導教室をやっているが、人がなかなか来てくれない、いまひとつ元気がなくて、しゃべらない。あんないい加減な場所で遊んでいる子たちが何で高校に行くのか、もしかして「居場所」にカギがあるのではないかと、行政が変わり始めた。

子どもたちの権利保障をめざし、年齢・性別・国籍・障がいの有無・学校に行っているかいないか・経済的な貧富などに関わらず、だれでも通える場をつくりたいと思い、川崎市子どもの権利条例の策定にも関わった。そして、子どもの権利条例の具現化をめざし、子どもの声を聞き、グループワークなどを重ね、設計にも意見をもらって、「川崎市子ども夢パーク」をつくった。2003年7月オープン。10,000㎡の中に、遊び場エリアと建物がある。この中に、不登校児童生徒の居場所「フリースペースえん」もあり、公設民営で運営している。

■子ども育ちの3要素・子どもにとって「遊ぶ」とは

川崎市に子ども育ちの3要素「遊ぶ、学ぶ、ケア」を提案している。遊んで育つ「遊育」、学んで育つ「学育」、ケア（気にかける）し、ケアされて育つ、つながりの輪の中で子どもたちが育つ。また、「やってみたい」ことに挑戦する環境づくりをしてきた。例えば、自分が木に登りたくて登ったんだから、落ちて骨折しても仕方がない。自分の責任で自由に遊ぶ。好きなことをやるのだから、少々のケガは起きる。しかし、大切なのは危険を予知・察知して、回避する力。子どもにとって、「遊ぶ」とは、生きることそのもの。息をする、食事をするように、遊びを通して、こころとからだの栄養を吸収する。「遊び」が持つ力、「非認知能力」が注目される。人間として生きていく力、目標に向かって頑張る力、感情のコントロールができる力、困難からしなやかに立ち上がる力を育む。

今は、失敗を恐れて、挑戦しない子どもが増えた。本当は、遊びを通して、失敗を重ねながら、それを乗り越える力を育む。ひきこもり支援をやっていると、生きづらさを抱える若者の中に、「0か100か」タイプの人が多いと感じる。完璧にできない自分を許せない。「できない」を受け入れる力の方が、よっぽど大切。

■フリースペースえん

川崎市がここをつくる時にお願いしたのが、台所。不登校支援には、台所がなくてはならない。毎日、お昼ご飯をつくり、30～40人で食べる。「おいしい・うれしい・たのしい」でつながる仲間。「ひとりじゃない」を実感する。「つくってくれた人、

ありがとう」という言葉が飛び交う。また、ここは子どもの権利条例を元につくっているもので、どんな障がいの子も、やんちゃな子も、無料で受け入れる。来ている子どもの4割が、障がい手帳を持っているか診断名がついている。異質・異年齢が混ざり合うインクルーシブな場が、どれだけ有効であり、安心して安全な場になるか。例えば、障がいのある子どもが困っていることに手を貸してあげることで、障がいのある子どもは助けてくれる仲間がいると感じ、手を貸してあげた子どもはひとの役に立ったと思える。お互いにハッピーになる。これだけで、豊かで、うれしい。

■ほっとできる居場所づくり

私たちの居場所づくりは、「何もしない」ことを保障していこうということ。支援のための目標をつくるのではなく、「居たいように、居られる場所」。弱さがさらけ出せる、ムダ話ができる仲間や空間が重要である。ひきこもり支援といっても、敷居が高ければ、そこには絶対に行かない。指導や「支援臭」から、若者は逃げていく。

■「自立」と「孤立」

自立とは、一人で何でもできることではない。「助けて」が言える、適度に人に依存できる力が、自立には必要なことである。できないことは、「助けて」と言えばいい。そして、できる人が助けてあげたらいい。適度に依存先を増やして皆で助けあって、生きていけるまちづくりに取り組んでいきたいと思っている。

■たまりばが大切にしてきたこと 「生きているだけで、すごいんだ」

たまりばの基本理念は、「『生きている』ただそれだけで祝福される～自己肯定感を育む居場所づくり～」。「To do (する・できる)」よりも「To be (ある・いる)」に光を当てる。「生まれてくれて、ありがとう」、「あなたがいてくれて、幸せだよ」を届けよう！これを親が伝えられたら、何とかなる。なのに、いつの間にか、できないことばかり拾い始める。親が言えなくなったら、第3の大人が、「キミはおもしろいねえ。好きだなあ」とか、それを伝えてあげる。誰かが誰かを放っておかず見てあげれば、子どもはまちの中で、一緒に生きていける。



グループワークで、講演の感想を共有しながら、交流を図った

サポちた インフォメーション

会員さんなどから集まる情報をお知らせします。お気軽に情報をお寄せください。

■星槎名古屋中学校「中学生レストラン」報告

8月18日、手づくりカフェAda-codaにて、星槎名古屋中学校料理部による「中学生レストラン」が、3年ぶりに開催された。今年、麻婆豆腐や棒棒鶏を中心としたボリュームたっぷりの中華料理のメニュー。お客さんからの「おいしかった!!」の声に、中学生たちも大喜びだった。(幸前)



準備する中学生たち

■2022年度愛知県男女共同参画推進活動者表彰

当法人の2代目代表理事、松下典子氏(現:(認N)ゆいの会)が、2022年度愛知県男女共同参画推進活動者として表彰された。表彰基準は、男女共同参画社会づくり推進活動を原則10年以上にわたって行い、その功績が極めて顕著であること。

松下氏は、(認N)ゆいの会では、性別、年齢を問わず、分け隔てなく、たすけあい事業などの幅広い福祉サービス事業を展開し、知多女性たちの会では、市民向け講座の企画を行うなど、男女共同参画の推進、女性の社会参画を支援する活動に尽力したことが認められ、今回の表彰となった。(早川)

■プレマクラブ「英語で保育！」スタッフ募集

(N)プレマクラブでは、子どもたちの夢と自信のため、英語環境を強化した保育所の運営を行っている。外国人スタッフとともに、日常生活を英語で行う保育所のスタッフを募集している。詳細は問い合わせを。

〈対象〉保育士資格は不要

英語がある程度できる人、興味がある人

〈日時・待遇〉要相談

〈勤務場所〉半田市庚申町2-46

企業主導型保育所 チャイルドハウス半田

〈問合せ〉(N)プレマクラブ(担当:石川)

☎ 0569-29-0810

メール info@premamaclub.com

■知多市市民活動センター主催 waiwai交流会 「消費税『インボイス制度』ってなあに？」

2023年10月1日から、「インボイス制度」が始まる。インボイス制度で何が変わるの？自分たちの活動にはどんな影響があるの？何を準備したらいいの？など、税理士が解説する。

〈日時〉10月29日(土) 10:00~12:00

〈場所〉知多市市民活動センター

〈講師〉大塚久俊氏(大塚会計事務所 税理士)

〈対象〉知多市市民活動センターの入居・登録団体、
テーマに関心のある方はどなたでも

〈参加費〉無料(要申込)

〈定員〉30人(応募者多数の場合は抽選)

〈締切〉10月21日(金)

〈問合せ・申込〉知多市市民活動センター(担当:安藤)

☎ 0562-31-0381 FAX0562-32-3160

メール chitanpo@ma.medias.ne.jp

■知多市若者チャレンジ支援事業

「2022年度ちた未来塾 活動報告会」

今年度のちた未来塾は、SDGsを切り口に、様々な学習やフィールドワークを行いながら、塾生がチャレンジしたいこと、できることを考えた。チャレンジの過程や、その中での気づきなど、活動報告会を行う。

〈日時〉12月17日(土) 10:00~12:00

〈場所〉知多市市民活動センター

〈塾長〉吉村輝彦氏(日本福祉大学教授)

〈対象〉関心のある方はどなたでも

〈参加費〉無料(要申込)

〈問合せ・申込〉(N)地域福祉サポートちた(担当:山森・早川)

☎0562-33-1631 FAX0562-33-1743

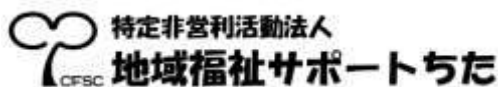
メール spchita@ams.odn.ne.jp

新会員紹介 ☆・*:.*.☆..*°.☆:* .*:°. . ☆..*

ご入会ありがとうございます。(2022/9/30現在)

【正/個人】田村 貢一様

:*° ☆*:.*.☆..*°.☆:*:.*.☆*°.°. . ☆.☆:*°.☆.



〒478-0047 愛知県知多市緑町12-1
知多市市民活動センター1階
TEL 0562-33-1631 FAX 0562-33-1743
メール spchita@ams.odn.ne.jp



◆地域福祉サポートちた

HP:cfsc.sunnyday.jp/

FB:facebook.com/sapochita/

◆手づくりカフェAda-coda

HP:cfsc.sunnyday.jp/01-adacoda/

FB:facebook.com/Adacoda.cafe/